

令和元年度 北はりま特別支援学校 訪問部「自己評価」

【ビジョン】 笑顔とやさしさあふれる教育活動に取り組む ～チーム学校として、愛情と情熱とやさしさを持って、一人一人を大切にす る～	【ミッション】 (1)互いを思いやり、尊重し、自他の命や人権を大切にする心を育む。 (2)児童生徒の発達段階や障害特性を踏まえ、適切な指導の充実に努め、調和的発達のとれた心と体を育む。 (3)多様な集団を保障し、体験を中心に据えた色々な角度からの学習を積み重ね、豊かな人間性と社会性を育む
--	---

【回収データ数】
教員データ: のぎく 2人 きずな 9人 在宅 1人 合計 12人

【自己評価基準】
A よくできている B おおむねできている C あまりできていない D まったくできていない

年度努力事項	数 目	実 践 目 標	具 体 的 取 組	本年 度 評 価	前 年 度 評 価	2年間の 評価比較	本年度の成果または課題	来年度の改善方針
安全・安心な学校	1	衛生管理・健康管理に努める。	重症心身障害児童生徒の教育に携わることを常に念頭に置き、児童生徒の健康に配慮した衛生管理、健康管理を徹底する。	4.8	4.5	→	・療育棟への入室時、退出時は手洗い消毒を励行した。 ・児童生徒の健康状態を意識し、常に温度、湿度等の教室環境に留意した。 ・施設と連携を図り、感染症予防及び感染症対策に努めた。	・児童生徒の体調管理に一層の注意を払い教育活動を行う。 ・日々の感染症予防に努め、感染症発生時には施設からの指示を順守し拡大を防ぐ。
	2	安全教育の徹底に努める。	安全な学習環境、生活環境を確保するため、施設・設備・教材・教具の点検・管理を定期的・日常的に行うとともに、児童生徒の安全に配慮した指導体制の徹底に努める。	4.4	4.0	→	・教職員間でヒヤリハットに関する情報共有し事故防止に努めるとともに、施設と情報を密に共有することができた。また、指導時の安全確保の確認を行うとともに、ヒヤリハットの報告等で安全に対する意識を高めることができた。 ・児童生徒の安全に配慮する事項に関して、施設職員などと連携をし、教育活動に生かすことができた。 ・年に3回、教職員全員で施設の安全点検や教材教具の点検を行った。	・引き続き、ヒヤリハットの情報共有を行うとともに施設と情報を密に共有し、事故防止に努める。 ・施設職員などからの助言を意識し、安全な学習環境を確保できるよう努める。 ・引き続き、教職員全員で安全確認や総点検を徹底していく。 ・今後も、定期的にヒヤリハットや安全について話し合う機会を持つ。
	3	障害特性に応じた指導方法や指導体制の工夫、および安全管理を行う。	教職員間および施設との日々の緊密な情報交換、連携協力体制を確立し、個別学習とグループ学習のバランスに配慮しながら、個々の児童生徒の障害特性に応じた指導と安全管理を行う。	4.6	4.2	→	・研究テーマに沿ったグループ活動になるように努めた。また、グループごとにグループ活動の振り返りを行い、指導の改善を図ることができた。 ・グループ学習の原点に立ち返って、話し合いを持ったり、反省点などが生かせるような雰囲気が出てきた。	・引き続き、児童生徒の特性に応じた、安全安心で楽しい授業づくりを心掛ける。 ・児童生徒の障害特性や指導方法について、また授業の打ち合わせや反省について、今後も教師間で話し合う機会を確保する。
自他の命と人権が尊重された学校	4	互いに思いやり、他者と共同して学べる学習活動を推進する。	グループ活動や行事等を通じて、友だちを意識したり、ふれあったりすることで、命の大切さが実感できる教育活動を行う。	4.2	4.3	→	・人間関係の形成を意識したグループ活動となるように教員間の共通理解が図れた。 ・グループ学習や行事でのふれあいを通じて児童生徒同士の交流やつながりを深めることができた。	・授業や学校行事において、児童生徒同士の交流やふれあいをより一層活発にする指導を今後も工夫していく。 ・安全を確保しながら学習活動の幅を広げていく。
	5	障害のある人に対する理解啓発に努める。	交流やホームページでの情報発信を通して、障害のある人への正しい理解と望ましい支援のあり方についての理解啓発を図る。	3.4	3.5	→	・スクーリング、芋の苗植え、ぶどう狩り交流などの行事で、他校や北はりま本校の児童生徒や職員、施設職員や地域の方々との関わる機会を持つことができた。 ・施設の行事や学習発表会等において、児童生徒の活動の様子を参加者に伝え、障害のある人に対する一定の理解啓発を図ることができた。	・施設の地域との交流行事などを活用して、施設と連携して理解啓発を図っていく。
	6	特別支援学校としての人権教育体制の確立に努める。	障害のある児童生徒の人権を尊重し、生活年齢に配慮した指導を行う。	4.0	3.9	→	・生活年齢に応じ、「さん」づけで呼びかけるように心掛けた。 ・児童生徒が主体的に学習できる場面をできるだけ設定した。	・今後も、生活年齢に配慮した声掛けについての共通理解をさらに徹底する必要がある。 ・生徒の人権に配慮した授業を展開できるように職員の意識をより一層高める。
自立と社会参加の実現を目指す学校	7	児童生徒のQOLの向上を目指した教育を推進する。	施設職員や保護者と連携協力して、児童生徒のQOLの向上を常に心がけた教育を展開する。	4.3	4.0	→	・施設職員と緊密に相談しながら、個々の児童生徒に必要な活動や教具等を教育活動に取り入れた。 ・施設職員や保護者と連携し、児童生徒本人のニーズを把握するように心がけた。	・連絡会などを通じて、より緊密な連携協力ができる体制を構築する。 ・引き続き、保護者の願いや意見も反映させながら、個々の児童生徒のニーズを把握するように努める。
	8	卒業後の生活の見通しを立てた指導を推進する。	保護者や施設との相談を密にし、卒業後の生活がスムーズに行えるよう支援する。	3.6	3.8	→	・日々の授業や行事を通じて、人間関係の広がりやコミュニケーション力の育成を図った。 ・保護者や施設と打ち合わせを十分行い、連携を図った。 ・卒業生に対しては、病棟でこまめに声掛け等をして関係性の継続に努めた。	・引き続き、施設と連携して卒業後を見据えた指導に努める。 ・卒業時の施設との引き継ぎをスムーズに行うため、移行支援計画の活用や意見交換をする会議の設定等を検討する。
	9	小・中・高の12年間を見通した教育課程を設ける。児童生徒の障害の特性に応じた弾力的な教育課程を編成する。	訪問部の児童生徒の実態に応じた教育課程を編成し、障害の特徴や学習上の特性などを踏まえた指導を展開する。	4.3	4.2	→	・個々の児童生徒の障害の実態や特性に応じた個別学習を行った。 ・グループでの学習を実施し、児童生徒同士のふれあいや交流を重視した集団的、体験的な活動を行った。 ・(訪問部の)中学部、高等部の教育課程を見直し、小学部と同様に合わせた教科を充実させた。	・合わせた教科を意識しながら、よりきめ細やかな指導を展開していく。

確かな成長が実感できる学校	¹⁰	施設との連絡会・ケース会議・カンファレンスを計画的に実施する。	年度当初の施設と訪問学級との調整会議や定期的な訪問学級連絡会、看護師・療法士との意見交換等を行う。	4.5	4.0	↑	・児童生徒の担当看護師や療育士と児童生徒の様子や指導方法について情報共有、意見交換して指導力の向上を図った。 ・カンファレンス前のケース会議に参加できることも増え、多くの施設職員と情報共有することができた。 ・修学旅行の打ち合わせも兼ねて、8月にも施設との連絡会を開催したため、準備が円滑に進んだ。 ・施設職員との良好な関係を基盤に、個々の児童生徒への対応について定期的だけでなく日常的にも報告や意見交換ができた。	・引き続き、施設職員と良好な関係を築き、率直な意見交換を行う。 ・毎月の訪問学級連絡会では、行事日程の調整だけでなく、児童生徒情報の交換をさらに積極的に行っていきたい。 ・来年度以降も、8月に連絡会を実施する方向で検討する。
	¹¹	行事の計画及び実施内容の充実、改善を図る。	施設等との打合せをしながらの年間及び各月毎の行事予定表の作成、行事後の反省を踏まえた次年度の行事立案を推進し、行事の充実を図る。	4.3	4.1	→	・施設と緊密に連携協力して修学旅行等の学校行事を円滑に進めてきた。 ・行事内容の検討や見直しをしながら、行事を実施するように努めた。 ・修学旅行をはじめとした様々な体験的、集団的な行事を実施し、児童生徒のQOLを高めることができた。 ・健康状態を把握し、施設と十分に連携して、各行事を円滑に実施できた。	・児童生徒数の減少に伴い教員の人数も減少していくことを考慮して、今後の行事内容の検討や見直し等を考えていく必要がある。
	¹²	各種研修会や研究・公開授業を通して実践的指導力や専門性の向上を図る。	本校での研修会、校外研修会への参加、施設との研修会、他の訪問学級との合同研修、研究・公開授業等での意見交換等を行い、授業力や専門性を高める。	3.7	3.5	→	・医療センターさすなのリハビリの研修会の参加は難しかった。 ・8月に県内の訪問学級に声をかけ、結果あおの、ルルド訪問学級と授業交流をさすな訪問学級で行うことができた。 ・公開授業を行い、本校からもたくさんさんの参加があった。年度当初に研究授業を決め、それに向けてグループの教師が協力して授業づくりに参加した。 ・年度当初から「人間関係の形成を意識したグループ学習を目指して」の研究テーマを意識したグループ学習の授業について話し合いの機会を持ち、意見を交換することができた。	・さすなでのリハビリ研修会や校外の研修会にも積極的に参加する。 ・研究テーマを年度末に決め、来年度も年度当初からテーマを意識した授業づくりができるようにしていく。 ・今年行った授業交流を継続して行うことで、他の訪問学級との合同研究会や交流のネットワークを広げ、訪問教育に関する専門的な知識と技能の向上を図る。
	¹³	児童生徒個々のニーズに応じた個別の指導計画を作成し、指導計画に基づいた支援と評価を行う。	保護者、施設のスタッフ、医師、療法士との連携の下、児童生徒の成長や障害の実態に応じた短期目標・長期目標を設定する。前期・後期に評価を適切に行い、目標や指導方法を見直す。支援の結果や評価を保護者に説明する。	4.4	4.0	↗	・施設職員の意見も参考にしながら長期目標、短期目標、指導計画を設定し、児童生徒の状態を見ながら、適宜、評価・見直しを行った。 ・常に関係者との緊密な連携を心がけ、個別の指導計画を作成できた。 ・合理的配慮について保護者の意向を確認し、支援に反映させることができた。	・あゆみと指導計画が同じなので、できるだけ保護者に分かりやすい表現を心がける。 ・施設や職員間の情報交換、連携協力を密に行うことで、個々の児童生徒の実態やニーズに応じた個別の指導計画を作成する。 ・引き続き、日々の支援内容や評価等を保護者に詳しく伝え、指導の改善に活かす。
地域に開かれた、信頼感のある学校	¹⁴	広報活動の推進を図り、積極的な情報公開・発信を実践する。	学校だより・学部だよりの定期発行、HPの定期的な更新を行う。連絡ノート等を活用し、日々の学校での様子を家庭に伝える。	4.3	3.8	↑	・連絡帳では、文章だけではなく、児童生徒の活動場面を写した写真を用いて、授業の様子が視覚的にもよく伝わるように工夫した。 ・連絡ノートを中心に、児童生徒の様子をしっかりと共有できるように努め、保護者と良好な関係を築くことができた。 ・訪問学級だよりは写真を多く掲載し、カラー刷り等でよりわかりやすい内容になるように工夫した。	・引き続き個々の児童生徒と学校全体の様子が保護者に伝わるよう留意する。 ・HP等を活用し、より適切な発信に努める。
	¹⁵	オープンスクールや授業公開等、保護者・地域・施設に開かれた学級づくりを推進する。	年間行事予定としてオープンスクールや各種行事の案内を関係者に行い、企画・運営にも工夫をする。	3.7	3.6	→	・施設や保護者に案内を配布して周知を図った。 ・オープンスクールや授業参観時に限らず、授業は常に公開している状況で実施している。 ・施設の行事に積極的に参加し、保護者や職員等と良好な関係が築くことができた。	・施設との協力のもと、地域との関わりがもてることを模索していきたい。 ・保護者と直接出会ったり話をしたりする機会を多くもてるように、今後も心がけたい。
	¹⁶	本校や施設、近隣学校、地域社会との交流を深める。	近隣の学校との交流、学校行事や施設行事を通じての地域住民との交流、学校行事への施設職員の招待・交流をおこなう。	3.8	2.9	↑	・本校とのスクーリングを通して、児童生徒同士のよい交流をもつことができた。 ・播磨農業高校との交流ぶどう狩りを継続することができてよかった。 ・施設における地域住民との交流行事である「秋祭り」等に訪問学級職員も参加し、児童生徒の交流活動を進めることができた。	・近隣の小学校等、地域との交流の機会がもてるよう、施設と相談しながら検討したい。 ・校外学習実施の可能性について模索していきたい。 ・施設の交流行事に今後も積極的に参加・協力していきたい。

↑
↗
↓

昨年度と比較して、評価結果数値に変化なしまたは0.2以内の変化あり。

昨年度と比較して、評価結果数値に0.3以上～0.5未満の変化あり。

昨年度と比較して、評価結果数値に0.5以上の変化あり。